【追　悼】

村上 幸夫 先生のご逝去を悼んで

本会第20代会長の村上 幸夫 大阪市立大学名誉教授は，平成23年9月27日天に召されました（享年78歳）。本会への多大な貢献に感謝し，心から哀悼の意を表します。

兵庫生まれの先生は昭和34年に神戸大学を卒業，昭和36年に大阪市立大学大学院修士課程を修了し，同年大阪市立大学の助手に採用されました。藤代亮一先生の指導の下「分子間相互作用エネルギーに関する研究－二成分溶液の混合熱」のテーマで昭和42年に学位（理学博士）を取得され，カナダNRCCのG. C. Benson教授の下で2年余り留学の後，同52年に助教授，55年に教授に昇任し，平成9年に同大を退職されました。その後，平成11年より14まで東京電機大学フロンティア研究センター教授に就任し，同19年まで客員教授として研究を続けられていました。その間，平成9年より12年までJ. Chem. Thermodynamics誌のAdvisory boardを務められています。

先生は一貫して非電解質二成分溶液の熱力学的性質を追求され，特にフロー法による過剰エンタルピーの迅速測定に情熱を注がれました。初期のLKB社の市販熱量計を精密恒温槽に収め，研究室で開発した低リップルのピストンポンプで液送するシステムに改良後，多くのデータを発表されています。こういった装置の改良は工作室に通い自ら行われました。同時に急速に発展した溶液の分子論と熱力学量を結ぶ量として過剰定圧熱容量や過剰圧縮率などのGibbsエネルギーの二次微分量の重要性に着目し，その後多くの溶液系のデータを論文発表されました。

先生は色々な学会で裏方的な仕事を多く引き受けられました。本会では会長に就任された頃，学会事務局移転問題が持ち上がり，学会事務局を一時，庶務幹事の方々と共同で運営されました。先生はこのように心身共に精力的と思われていたかも知れませんが，学部生の時，肺結核を煩い，休学して2年間療養され，本会会長に就任された頃からはC型肝炎との戦いが始まり，健康面では恵まれていたとは言えません。しかしそう言った自分の周辺の問題は一切顔に出されず大阪市大以外の多くの学生や研究者にも非常に丁寧に研究指導されました。最後にこれらのご指導に対し弟子を代表して心から感謝を申し添えます。

（東京電機大学　小川 英生）

阿竹 徹 先生のご逝去を悼む

本学会の元会長であった東京工業大学名誉教授 阿竹 徹先生はご病気のため，8月31日にご逝去されました。先生は一昨年3月に東京工業大学を御定年された直後に大病をなされましたが，手術後すぐに回復され，本年3月までは東工大特命教授として常勤されていました。また東京都市大学客員教授として前期の講義を済まされた矢先のことでした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

阿竹徹先生は1943年9月三重県伊勢市のお生まれで，1966年大阪大学理学部化学科を卒業後，引き続き同大学院理学研究科へ進学されました。1971年に大阪大学理学部化学科の助手に就任され，1984年8月同講師，同年10月東京工業大学工業材料研究所助教授を経て，1992年からは同教授として研究，教育を行いました。大阪大学では関 集三先生のもとで物理化学を学ばれ，千原秀昭先生に就いて熱測定研究者としての活動を開始され，東京工業大学では齋藤安俊先生とご一緒に研究されました。世界最高の精確度を備えた断熱型熱量計による精密自動熱容量測定装置を開発し，それを用いた熱容量測定を中心に材料熱力学の新分野を開拓されました。これら一連の研究業績により1997年度日本化学会学術賞，米国Calorimetry ConferenceのChristensen Memorial Award（1999），Hugh M. Huffman Memorial Award（2007）などを受賞されました。

日本および世界の化学熱力学の発展にも尽力され，昨年のIUPAC化学熱力学国際会議2010年日本開催では日本学術会議との共同主催として組織委員長を務められ，会議を成功へと導かれたことは記憶に新しいものです。同会議を指導するIACTでは2004年以来Directorを務められ，2012年の国際会議でも組織委員を務められる予定でした。本学会では，庶務幹事，編集委員長を歴任され，2003-2005年には会長を務められました。Calorimetry Conferenceでも1996年以来8年にわたってDirectorとして活躍され，2003，2007年にはハワイにおいて日米ジョイント会議を主催されました。また，1998年から2008年にわたってInternational Symposium on the New Frontiers of Thermal Studies of Materialsを4回主催されました。

何事にも全力で取り組まれ，適当に済ませることができなかった先生でした。また，面倒見の良い先生でもありました。まだまだ御活躍していただかなければならないことがたくさん残っていたことを考えると，残念でなりません。あらためて，先生のご冥福を心よりお祈り致します。合掌。

（東京工業大学 応用セラミックス研究所　川路 均）